

当月の県内業界の景況 DI 値は、前月より 3.8 ポイント上昇し、-30.8 ポイントとなった。全国においては、前月より 0.9 ポイント低下し、-28.5 ポイントとなった。

-概 況-

11月の前年同月比DI値は図表2のとおり前月と比べ7指標が上昇し、2指標が低下した。主要3指標では「売上高」は5.8ポイント上昇、「収益状況」で5.8ポイント低下し、「業界の景況」は3.8ポイントの上昇となった。

製造業のうち「酒類製造業」では、原料米価格が前年より約60%高騰した影響で、減産を検討する組合員も見られる。一方で、海外輸出などの需要があるため一定量の製造は必要だが、原料米の値上げ分を価格転嫁できず販売数が増えても収益は悪化している。「一般製材業」においては、プレカットの稼働はやや回復傾向にあるものの市場全体の動きは鈍く停滞感が強い。今後の景況については、引き続き注視していく必要がある。

非製造業のうち「建設業」は、人手不足の状況が続いているものの、工事受注の増加により売上高は前年同月比で約10%増加したため、業況は概ね順調に推移している。「貨物自動車運送業」では、一般貨物において製造業の荷動きが悪く出荷量が減少している。運賃についても頭打ちの状況が続いており、売上及び利益が削られている。また、宅配貨物輸送は改善傾向にあるものの、ドライバー不足によりトラックを効率よく回せず、規模が小さいほど経営環境は厳しい状況である。

ガソリン暫定税率廃止の決定に伴う段階的な補助金の拡充により、物流コストの負担軽減が期待されているものの、物価高騰に加え、最低賃金の上昇による人件費の増加及び人手不足等の課題が依然として改善されず、多くの業種で先行き不透明な状況となっている。

図表1 【業種別・指標別DI値一覧表】

	売上	在庫	価格	条件	収益	資金	設備	雇用	景況
食料品製造	-50.0	0.0	50.0	-25.0	-50.0	-50.0	0.0	0.0	-75.0
繊維・同製品	0.0	0.0	25.0	0.0	-25.0	-25.0	0.0	0.0	0.0
木材・木製品	-75.0	0.0	-25.0	-25.0	-75.0	-25.0	-25.0	0.0	-75.0
印刷	-100.0	0.0	100.0	0.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0
窯業・土石	0.0	50.0	50.0	0.0	-25.0	0.0	-25.0	0.0	0.0
鉄鋼・金属	-25.0	-25.0	25.0	-50.0	-50.0	-25.0	-25.0	0.0	-50.0
一般機器	25.0	25.0	50.0	0.0	25.0	25.0	50.0	-25.0	-25.0
製造業	-24.0	8.0	32.0	-16.0	-36.0	-20.0	-8.0	-8.0	-40.0
卸売業	-66.7	0.0	0.0	0.0	-33.3	-33.3		-33.3	-33.3
小売業	-14.3	-14.3	14.3	-28.6	-57.1	-57.1		14.3	-42.9
サービス業	33.3		50.0	-33.3	-50.0	-33.3		0.0	-33.3
建設業	0.0		20.0	-40.0	-40.0	-20.0		-40.0	0.0
運輸業	-25.0		0.0	0.0	-25.0	-25.0		-25.0	0.0
その他	0.0		50.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0
非製造業	-7.4	-10.0	22.2	-22.2	-40.7	-33.3		-11.1	-22.2
全体	-15.4	2.9	26.9	-19.2	-38.5	-26.9	-8.0	-9.6	-30.8

図表2 【指標別DI値の推移】

	6年 11月	12月	7年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	前月比
売上高	-19.2	-11.5	-21.2	-7.7	-13.5	-5.8	-25.0	-15.4	-13.5	-13.5	-25.0	-21.2	-15.4	5.8
在庫数量	-2.9	-5.7	-14.3	-2.9	-2.9	-2.9	-11.4	0.0	-2.9	-5.7	-8.6	-5.7	2.9	8.6
販売価格	26.9	15.4	19.2	17.3	30.8	23.1	30.8	25.0	28.8	19.2	25.0	23.1	26.9	3.8
取引条件	-5.8	-9.6	-11.5	-17.3	-15.4	-11.5	-21.2	-23.1	-17.3	-25.0	-21.2	-21.2	-19.2	1.9
収益状況	-36.5	-25.0	-26.9	-28.8	-32.7	-23.1	-28.8	-25.0	-28.8	-34.6	-30.8	-32.7	-38.5	-5.8
資金繰り	-25.0	-19.2	-11.5	-15.4	-15.4	-15.4	-21.2	-13.5	-13.5	-19.2	-19.2	-23.1	-26.9	-3.8
設備操業度	-20.0	-16.0	-4.0	-12.0	-16.0	-20.0	-24.0	-12.0	-20.0	-16.0	-24.0	-24.0	-8.0	16.0
雇用人員	-11.5	-9.6	-7.7	-1.9	-11.5	-1.9	-5.8	-7.7	-5.8	-9.6	-13.5	-11.5	-9.6	1.9
業界の景況	-36.5	-36.5	-34.6	-42.3	-38.5	-38.5	-40.4	-26.9	-28.8	-38.5	-36.5	-34.6	-30.8	3.8

特記事項

情報連絡員報告（令和7年11月分）

集計上の分類業種	具体的な業種 （産業分類細分類相当）	組合等及び組合員の業況等 （景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
食料品	和洋菓子製造業	売上等は幾分増加傾向にあるが、販売価格上昇による今後の買い控えが心配である。又、人員の確保も今後の大きな課題になる。
	めん類製造業	県内の東西の県境に近い地域は、人口減少、経営者の高齢化及び後継者不在による廃業の影響があり、今年に入り数件の廃業が続いている。また、県外の同業者が低価格でお客を奪い取っているとの情報もある。同様に、自家製麺をしていた飲食店が製麺卸に変化している。その飲食店で修業した弟子に、自家製麺を販売しているとの情報もある。我々製麺業を取り巻く経営環境は、人件費や原材料資材類のコストアップの影響のみならず、こういった外部の影響もあり厳しさが続いている。令和の米騒動でお米の値段が高騰しているが、お米に代わる主食の一端である麺類には好影響が及んでいないようである。また、人材の流動化が進んでいて、若い社員さんの退職も続き、その後の採用に苦慮しているとの情報もある。社員さんは、より条件の良い会社に簡単に転職しているようで、心配が尽きない。
	酒類製造業	原料米の急激な価格高騰の影響を受け、製造数量の減産を検討する組合員もみられるが、海外輸出などの需要はあるため、一定数量は製造しなければならない。しかし、原料米価格の値上げ分（前年価格より約60%高騰）を商品に価格転嫁することは難しく、売れば売るほど赤字状態にならざるを得ない状況である。
繊維工業	縫製業	年間継続商品の受注に加え追加生産受注が入った為、前年同月より売上が増加した。しかし、10月1日より最低賃金が上がったことにより、収益は前年同等となる。業界の市況は依然として好転しておらず大苦戦している。秋物商品の店頭販売が駄目で気候がやっと寒くなった状況だが、冬物商品の店頭販売も動きが良くないとの情報が入ってきており、来春物の生産にも大きく影響しそうである。
	絹・レース・繊維粗製品製造業	原料値上げの動きは、ようやく一段落した様子だが、業界全体の動きとしては引き続き低調と感じている。海外向けの受注は比較的安定しているが、微妙な国際情勢の影響は今のところ無いので、このままの状態で推移してもらいたい。新たな経済対策が打ち出されているので、早く良い循環が生まれることを期待したい。
木材・木製品	一般製材業	プレカットの稼働はやや回復傾向にあるが市場のダイナミックさに欠けているため停滞感が強い。今後の景況を注力してみていきたい。
	家具・建具製造業	トランプ関税の影響が顕著化し、売上減少及び収益悪化とする企業の割合が増加している。景況感同様に「悪化」と答える割合が高く、先行きを悲観する企業が多い。
	木材・木製品製造業	住宅向け木材及び資材の売上の落ち込みが拡大している。非住宅では木造物件の案件の新規見積も散見されるが、なかなか受注に結びつかない。住宅の新規見積が以前より増えてきている印象なので今後に期待している。梱包向け資材は順調に推移している。人材確保に苦慮しており新規の見積に対応することが難しい状況である。
	木材・木製品製造業	販売量については、流通部門では変わらず、製造部門では若干の増加。販売価格及び仕入価格については、流通部門及び製造部門とも変わらない。
印刷	印刷業	年末の繁忙期だが印刷需要は年々低下してきている。用紙・版・インク等の値上がり分については価格転嫁を進めているが、人件費及び加工賃の転嫁は追いついていない。付帯サービスの取り込み等で付加価値増大を図っている。
窯業・土石製品	石灰製造業	鉄鋼向け及び建材関係では、昨年比で増加となった。肥料関係は、前年比で減少となった。全体では、昨年比で増加となった。
	窯業・土石製品製造業	11月は陶器市が行われ1～4日で17万人の来客があり、750張のテントが出てかなり売上があった。中旬以降は陶器市を行っていないので売上が下がると思われたが売上は例年並みであった。冬に入りイベントも少なくなり、作陶も減るので売上も下がりそうである。
鉄鋼・金属	金属製品製造業	自動車部品は減産が続いている。自動車メーカーが厳しい状態でありサプライチェーンの業種転換は難しい。地方の経営環境は一段と悪化にあり年末の賞与に影響が出る。鋼材加工も受注激減で稼働停止の機械もある。経済対策に期待感が持てない。経費削減も限界であり中小零細は打つ手がない。
	金属製品製造業	真鍮や銅など材料費が値上がりのため製品も値上げになった。

	金属製品製造業	主な問題点は、仕入価格の上昇、人材不足及び人件費等経費の増加である。
一般機器	一般機械器具製造業	全体としては、各項目とも前月と比べ「不変」とする回答が多かったが、売上高及び収益状況については、各組合員によりばらつきが見られた。取引先の状況により大きく影響を受けているケースがあり、様々な外部環境により今後も左右されると思われる。雇用に関しては依然として厳しい状況である。アサヒビールやアスкулなどの被害にみられる、ランサムウェアを含むサイバー攻撃への脅威については、「非常に危機感を感じている」「ある程度危機感を感じている」との組合員の声が多い。クラウドによるデータのバックアップなどで対応しているものの、対策の状況については企業規模などによりまだ未整備な部分も多い。
	一般機械器具製造業	11月に入り、若干景気が落ちてきたように感じる。そのためか忙しさがなくなってきたように思われる。メディアはIT好景気を盛んに煽っているが、ごく一部のことのようにしか思えない。
卸売業	各種商品卸売業	売上高は「減少」とする企業が若干多かった。業況等は前年同期に比べ微減とする企業もあるが、「不変」とする企業が上回った。本年度は脱退予定組合員3社に加え、事業譲渡による脱退が1社と組合員減少となり大変厳しい状況となっている。
	各種商品卸売業	業種及び取扱商品によって流通量の増減に差がある。燃料価格は暫定税率廃止の決定により以前より落ち着くと思われるが、物価高騰により仕入コストも上昇しているため、厳しい状態が続いている。従業員の人員確保が難しい。（募集をかけても集まりにくい。）賃金アップについても対応していく中で、原資の確保の他、労働時間問題についても検討していかなければならないため課題も多い。
小売業	食肉小売業	円安で輸入商品が値上がりしている。鶏卵も値上がり、スーパーも輸入食品の販売が多い。国産品は高値安定で推移している。
	その他の小売業	組合事業については、昨年の同月に比べるとガスの販売単位は低下したが、需要先が微増したことによりカバーできている。組合員を見ていくと、ガソリン減税と暫定税率の廃止により配送コストが微減してくれるのではないかという淡い期待を寄せるが、人件費、とりわけ最低賃金の急上昇と人手不足からなる求人の魅力化に向けた賃金上昇により、その期待は達せられるかは不透明なところである。
	各種商品小売業	11月は開業40周年セールの実施により、館内の集客及び売上ともに一定の盛り上がりが見られ、期間中は比較的好調に推移した。アパレルも気温の低下とイベント効果で動きが改善した。一方で、月前半の不調が影響し、月間トータルでは僅かに前年割れとなった。物価高による買い控え姿勢は依然として強く、単価及び点数ともに伸び悩む状況が続いている。また、40周年セールを通じて館としての存在感を再度アピールできた点は一定の成果であり、今後はこの流れを年末商戦へどれだけ繋げられるかが重要となる。
	花・植木小売業	夏の気温の影響で高品質花材の入荷が思うようではない（高品質＝高値）。葬儀の件数は増えてきたが家族葬での施行が多く供花の基数が伸びない。婚礼に於いても卓数20を超えるような大きな披露宴は少なく売上が伸びない。師走の売上に期待しているが、花材の価格及び入荷数に不安を持っている。
サービス業	理容業	女性客の集客を狙い、組合でもレディスシェービングやエステ等のセミナーを数回開催し、実際にメニュー化するサロンが増えている。男性客にとらわれず、理容師ならではのシェービング技術を取り入れ、女性客でも入りやすいサロンを目指し、今後も興味を引くようなメニューを考案できればと考えている。
	旅館・ホテル	11月も宿泊は高稼働だった。原材料高と物価高がホテルでの宴会に良くない影響を与えている。11月も利用状況があまりよくなかった。飲食店では物価高による利用控えの影響が出ているように感じる。原材料の高騰が非常に影響が大きい。
	廃棄物処理業	来年2月に組合員従業員向けの「浄化槽講習会」を開催予定である。
	給食センター	今後の事業転換を進めるため、出資金の整理をしている。値上げも交渉している。
建設業	一般土木建築工事業	先月同様に今月も収益状況及び業界の景況ともに芳しくない状況である。
	職別工事業	人手不足等は相変わらず続いているものの、工事受注の増加により売上高においては前年同月と比較すると約10%程増加した。今月においては順調に推移した。

運輸業	貨物自動車運送業	一般貨物では、生産製造業の荷動きが悪く出荷量が減少している。運賃についても頭打ちで売上及び利益が削られている。一方で宅配貨物輸送が改善傾向であるが、ドライバー不足によってトラックは効率よく回せていない。規模が小さいほど業況感は厳しい状況が続いている。
	貨物軽自動車運送業	11 月に関しては、月初と月末に 3 連休があったため稼働日数は減少したが、師走への助走期間らしく慌ただしい日が多かった。特に食料品や飲料等の配送依頼が多く、物価高ではあるものの多くの商品を運んだ。
	一般旅客自動車運送業	タクシー業界も以前にはなかった日本版ライドシェアが交通空白地帯解消のために導入されたが、それよりも成田空港から観光地に案内する中国系の白タク問題のほうが見ても違法であり大体のところがわかっているのに見逃している現実がある。インバウンドで来日する外国人目当てに観光会社、移動の手段及び食事の提供その他において中国系で占めたのでは売上及び利益は外国へと流れ、日本には残らない。国際秩序などきちんと守るのが当たり前だが自国に都合が悪いと横柄な態度をとり程度の低さを露呈している。業種によっては輸入規制がかかり大きく影響が出るがここは日本のプライドを見せてもらいたい。
その他の非製造業	大谷石採取業	観光客を対象とした団体バスのシーズンが終了する。